



祝 辞

佐伯市長 西 嶋 泰 義

「佐伯史談」200号記念誌発行に際し、心からお祝いを申し上げます。

昭和40年1月の第1号発刊以来、40年間休むことなく刊行を続け、この度200号という大きな節目をお迎えになるまでの皆様の努力はいかばかりかと謹んで推察申し上げる次第でございます。

刊行初期の謄写版印刷時代から、佐伯史談は地元の郷土研究家の発表の場として大きな役割を果たしてまいりました。会員の方々の熱心な研究成果を冊子としてまとめ、定期刊行するという作業は計り知れない労力を伴うものと拝察されます。しかし、そのような努力のもと発行された「佐伯史談」を多くの方が手に取ることにより、

読者の郷土史への興味と研究心を強く刺激し、それがまた、更なる郷土史への研究へとつながってまいりました。「佐伯史談」の存在が本市の郷土史研究の発展に大きく寄与し、市民の郷土への愛情を豊かに育んできたことは、誰もが認めることであると考えます。

また、各研究者の間で高い評価を受けておられる「佐伯史談」ですが、発行の際には本市にも欠かさずご献本いただいております、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。どの号も大変興味深い調査研究が掲載されており、日々の業務の中で参考にさせていただいております。

私も以前から佐伯史談会の末席に名を連ねさせていただいておりますが、間近で拝見する皆様の郷土史に対する知識と熱意には、ただ頭が下がるばかりです。この200号をひとつの節目として、佐伯の誇る郷土研究書である「佐伯史談」が、今後も長く継続刊行されますことを期待しております。

最後に、会長、編集長及び会員の方々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げますとともに、佐伯史談会が今後ますますご発展されますことを心からご祈念申し上げます。